

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人 イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜市芥見野畑1丁目25番地		
自己評価作成日	平成22年10月27日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170101998&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年12月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「できる能力」を活用していただき、身体機能の維持向上と日常に活力が生まれるよう自立支援に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総合病院、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等を有する大規模な洋風建築が立ち並ぶなか、ホームは特別養護老人ホームと同じ建物の4階フロアに位置している。建物外観からも想像出来るくらい内部は広々とし、高級感と清潔感に溢れる空間である。利用者の身体機能の維持・向上を目標に、日常生活で残存機能を十分発揮し、生きがいのある日々を過ごせる支援に努力している。また、身体機能の低下が重度な利用者に対してもホームの機能を生かし、安心して暮らせる場を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は地域の中で利用者かその人らしく生活できるように援助し、理念の実践につなげている。	法人の基本理念のもと、地域密着型サービスの意義をふまえ、ホームの目標として地域の中で「自分らしく安心して穏やかに生活できる事」を掲げ、毎朝の申し送り、月2回の勉強会に職員間で共有し、日々のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者は、地域との関係性を継続できるように働きかけ、職員がホーム建物周辺の地域の清掃活動を行い、地域住民との関係作りに努めている。	大規模施設の中にあるため、自治会への加入はないが、自治会の清掃作業にはホーム職員と利用者も積極的に参加したり、地域の公民館で行われる「いきいきサロン」に参加し、地域住民との交流が広がり、顔馴染みの人から手作りのお手玉等が寄せられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で2ヶ月に1度開催される「いきいきサロン」に参加したり、施設の夏祭りや盆踊りのチラシを地域に配布し、利用者と地域住民との交流に努め、ホームとして、地域に貢献できる事を検討、実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、会議を開催し、実情や取り組みを報告し、アドバイスや協力を得ながらサービスの向上に努めている。	市職員、自治会長、自治会連合会長、民生委員、家族代表の出席のもと、3ヶ月に1回、実施している。会議では、「いきいきサロン」の参加にあたり、会場となる公民館の出入りやトイレの使い勝手など具体的な意見も寄せられ、参加住民から介助の協力も得られている等の報告を通し、利用者理解に繋がっている。	ホーム行事や母体法人の年間行事への参加も呼び掛け、意見や感想を受けて今後に繋げるとともに、実施回数を現行の年4回から2ヶ月に1回の年6回に増やされたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者には、常に報告する姿勢であり、必要に応じて、実情や問題に対するアドバイスを受けている。	他の市町村からの利用相談や感染症・災害に関する情報は得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者と職員は身体拘束に対する弊害を認識し、拘束の無い介護に努めている。	身体拘束に関する研修や勉強会も実施され、職員は拘束の意味を十分理解している。現状は玄関、エレベータも自由に出入り出来る。居室からベランダへは4階にあるため施錠されているが、毎日数回、換気のため、職員と共に解錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士、見逃す事の無いように、職員会議では、必須のテーマとして、常に話し合っている。		

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会には、関心を持って参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時など、文書を確認していただきながら、不安なく利用していただけるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の会」は、3ヶ月に1回開催され、多くの家族が参加しているが、参加できない家族の利用者の気持ちに配慮し、1階の会議室で行なっている。ホームから活動報告や今後の予定を連絡し、家族の要望や意見を聞いている。意見は真摯に受け止め検討し、対応している。	「家族の会」を3ヶ月に1回開催し、毎回6～7名の参加がある。インフルエンザの時期の外出について意見が寄せられホームとしての体制を伝えるなど、職員は何でも話し合える関係づくりに努力し、ケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、GH会議にて、職員から意見を徴している。	毎月2回の職員会議が行われ、職員は常に利用者の視点に立ち、高齢者の行きたい所、食べたいもの、やりたい事を考え、提案している。職員の提案を実現できるよう管理者はじめ代表者も協力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいについては、認知以外の研修にも参加できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に外部の研修情報を提供したり、必要な研修については参加を指示し、また、関係機関からの情報収集を図っている。職員に資格習得を奨励し、法人での学習会も行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は協議会を通じて、同業者との交流に努め、勉強会にも参加し、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、本人と家族にホームを見ていただき、雰囲気を感じていただくように働きかけている。他の利用者に紹介して、相性を見ながら少しずつ馴染んでいただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前より、家族とのコミュニケーションに努め、いつでも電話や訪問を受け、できる限り不安が少なくなるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時、本人と家族に不安があることを念頭に、必要としているサービスが適切であると感じていただけるように努め、援助している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを職員が共有できるようにしている。本人の声を聞く姿勢で援助し、本人との話し合いも時として行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始前の本人と家族の関係が壊れないように、日常生活の援助を行なっている。どんな些細な事も本人の希望であれば伝え、家族にしかできない援助をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が望まない場合があるが、できる限り実現できるように援助している。	家族と共に外出や外泊する利用者もある。知人や友人の来訪もあり、ゆっくり過ごしてもらえようもなし、繰り返し来られる人もある。ホームでドライブに出掛けた際には、利用者の馴染みの場所に立ち寄る工夫もされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の利用者を意識しての意見などは、時として職員が解決せず、利用者任せなどして、お互いを理解していただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時に、いつでも相談を受けられ、関係が継続される事を伝え、本人や家族の不安に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人に意思確認し、本人が気持ちを伝えやすい環境づくりに努めている。	利用者は言葉で伝達できる人が多いため、日常会話から思いや意向を把握することが多い。利用者が気持ちを伝えやすい環境や関係づくりに努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は家族から、利用開始後は、日常会話も含めて、日常生活の中から本人の暮らしを知り、本人らしさを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活介護の中にて、利用者一人ひとりと関わるようにしている。変化にいつも注意を払っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、職員の意見を集め、ホーム内での生活がより良くあるための計画を目指し、作成している。	利用者・家族の意向や要望を踏まえ、毎日の実施記録をもとにした担当職員からの情報、往診医師からの指示、看護師からの助言を集約し、介護支援専門員が具体的な介護計画を立案している。3ヶ月の定期見直しに加え、必要があれば随時の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、介護記録に日々の様子を記入し、計画が適切であるか、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からのニーズに対し、できる限り対応する姿勢を持って援助している。		

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「いきいきサロン」に参加したり、買い物に行ったりして好みのものを買ったりしながら、地域での生活を楽しんでいただけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族と相談の上、受診を援助している。かかりつけ医には、常に、日常生活の様子を伝え、適切な医療を受けられる体制づくりに配慮している。	入居時にかかりつけ医と協力医療機関の選択について、十分な説明をしているが、母体が総合病院であるため、多くの利用者が協力医療機関を利用し、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職は、常に介護職の相談に答えられる体制にあり、情報は適宜、伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療を受けられるように、医療者との情報交換に努め、早期退院に向けた話し合いも、利用者の状況に合わせて行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせて、本人や家族と話し合う姿勢で取り組んできた。今後もその姿勢は変わらない。	契約時にホームの方針を伝え、常時医療行為が必要な状態になれば、利用者・家族と話し合いの上、医療機関への入院を勧めている。ある程度の重度化に対しては、母体施設の設備等を活用し、ホームでの生活を継続出来るよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認は職員が個々に行なっている。訓練は現在まで行なわれていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として、年2回、利用者が参加して、避難訓練が行なわれている。その他に、利用者と災害時の対策の確認を不定期に行なっている。	年2回、消防の指導による避難訓練を実施している。また、不定期にスプリンクラー設備・避難経路の確認や初期消火についてなどの話し合いが職員間で行われている。ホーム建物は震度7の耐震建築であるため、地域の避難場所として活用してもらい、双方の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者や家族の前で他の利用者の話をしないことを心掛けたり、言葉遣いにも配慮している。掲示物にも利用者の尊厳を失わない配慮がなされている。	職員は利用者個々に丁寧な声かけを行っている。トイレ誘導時も耳元でゆっくりと促している。自立度の高い人が多く、食後は自室でTVを見たり、ソファでくつろぐなど、一人ひとりが自由に過ごす時間を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動に移す際、本人の希望や思いが聞かれる様、声掛けの仕方に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間など、利用者の生活リズムが尊重されている。新聞・乳酸飲料の購入、夜食など個々の楽しみに援助を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回、施設内で行なわれる理容室に行けるように援助する。利用者と共に衣類の購入に出掛け、好みのものを選んでいただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が献立を立て、厨房で用意された食材を職員が調理する。利用者は、配膳やテーブルを拭く、御手拭たたみ等を行なっている。月2回、グループホーム単独で、昼食作りや外食に行くなど楽しんでいただいている。	個々の馴染みの食器が持ち込まれ、陶器の器に彩りよく盛り付けられた食事を楽しんでいる。食後は体調にあわせ、自発的に下膳したり、テーブルを拭く姿もある。おやつ作りは、利用者の要望に応じ、ぜんざい・おはぎ・ケーキ等季節に合った物を作る楽しみも支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リビングにはいつでもお茶を飲めるようにポットが用意され、夜間は、コップなどにお茶をいれ、各部屋に置いて水分補給される。食事摂取量の把握を行い、月1回の体重測定を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、可能な限り自分で行なっていたり、出来ないところを援助している。夜間の義歯洗浄の援助も行なっている。		

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣を取り戻していただくため、時間を決めてトイレに誘導したり、パットの交換や後始末など、その人に合わせた援助を行なっている。	排泄面では、自立している人が4名いるが、介助や見守りが必要な人4名には排泄パターンを把握し、トイレに誘導している。夜間はポータブルトイレを使用し、オムツの使用は無い。自立支援に努力している。	居室ベッドの横にポータブルトイレが設置されているが、日中使用しないのであれば、設置場所を変えるかカバーを掛ける等の目につかない工夫が望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化を助ける食品やメニューを工夫したり、乳酸菌などの摂っていただいたり、運動や体操に声をかけたりと便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日おき。気の合う利用者同士が入浴を楽しむ様子も見られる。利用者の希望により、昼間の入浴を行なっている。	入浴は、基本的に、隔日の午後の時間帯に実施されているが、外出や身体状況に合わせて時間変更や部分浴、清拭等にも、柔軟に対応している。ゆったりした浴室は、2人でも入れるため、気の合った者同士で入ることもあり、見守り支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具や衣類を使用していただき、自由な時間に休まれる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診療を受け、看護師の管理のもと服用している。症状の変化を医師や看護師に報告、指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物たたみ、リビングや居室の掃除など、できる範囲で役割を持ち行なえるように支援している。作品づくりも大きな楽しみになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として、月に3・4回の買い物やドライブ。個々に家族と共に外食など、外出支援をしている。2ヶ月に1回、ふれあいいいききサロンに参加など地域の人達との交流も行なっている。	天候を見て散歩に出かけて、近くのコンビニエンスストア型の薬局に立ち寄るのも楽しみである。母体施設の敷地は広く、敷地内を散歩するだけでも十分な運動量である。家族との外出も多く、地域の「いきいきサロン」も2ヶ月ごとに参加している。ホーム行事として、買い物やドライブなど積極的に外出支援が実施されている。	

岐阜県 グループホームスマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ、家族より金銭を預かり、預かり書を渡している。利用者が買い物する時に渡している。また、職員が金銭管理を行い、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室内で、手紙を書いたり読んだりできるように机を置いている。プライバシーに配慮して、電話の援助を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気を心掛け、開放されたトイレからの臭いに注意している。リビングは明るく、開放的で、季節ごとの花が置かれ、家庭的な雰囲気である。	広々としたリビングは、南向きで陽が燦々と入り、清掃も行き届き清潔感もある。ゆったりくつろげるソファや手の届くところに雑誌が置かれ、手作りの作品がきれいに飾られており、落ち着いた居間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、離れた空間には丸テーブルを置き、自由に利用していただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、日当たりのいい居室には作り付けのタンスや洗面台があり、なじみの物を置いたり、飾ったりされる。また、居室内に冷蔵庫などを置いて、暮らしやすい環境に工夫されているところもある。	各居室のドアは、全て異なる色で、色分けされており、利用者の目印とホーム全体のアクセントになっている。居室は十分な広さで、ベッド・洗面台・大きな整理ダンスが備え付けられている。TVや冷蔵庫の持ち込みもあり、利用者個々の個性に合った装飾が施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は色分けされており、リビング内は動きやすい空間を配慮した配置を行なっている。		